



きじむんの どう〜ちゃいばにい〜 古文書入門編

第5回 古文書の形状

キーワード：装丁 装訂 書誌学 古典籍

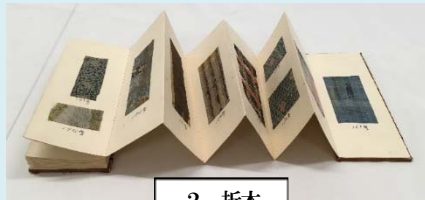
はいさーい！ きじむんやいびーん。皆さん夏休みはもうすぐ！ 試験終了まで頑張っ！ 附属図書館3F ホールで開催中の図書館おススメ本「物外忌特集」は毎月13日が没後70年目の命日にあたる伊波普猷に関するコーナーだよ、是非見に来てね！ さて、今回は、附属図書館が所蔵する古文書の形状についてだよ～！

書籍の製本の仕方を装丁（装訂）といいます。琉球大学附属図書館が所蔵する古文書の装丁にはいくつか種類があります。

1. 巻物（卷子装）：紙による装丁の中でも最も古いと言われている形状です。横に長くつなぎ合わせた紙の末端に軸をつけて巻き込み、紙の始まり（表紙）部分につけられた紐で巻きとめる形になっています。



1. 巻物（卷子装）



2. 折本

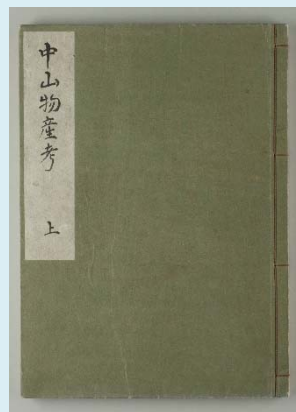
2. 折本^{おりほん}：巻物は読んだあとの巻き戻しが不便なことから、紙の端から一定の中に折りたたんだ形が現れ、折本と称しました。

3. 綴葉装（列帖装・綴帖装）^{てっしょうそう れっしょうそう てっしょうそう}：紙を数枚ほどひとまとめにして二つ折りにしたものをいくつか重ね、折り目の外側から糸綴じた装丁です。

4. 袋綴^{ふくろとじ}：紙の中央から表を外側にして二つ折りしたものを重ね、折り目と反対側の紙の端で綴じたものです。表紙の種類や表紙をつけるときの綴糸の方法によっていくつかの種類（明朝綴^{みんちやうとじ}・康熙綴^{こうきとじ}・朝鮮綴^{ちやうせんとじ}等）にわかれています。



3. 綴葉装



4. 明朝綴（四ツ目綴・和綴）



4. 康熙綴



4. 朝鮮綴（五ツ目綴）

5. 畳物^{たたみもの}：地図やすごろく等の一枚物の装丁です。



畳物



赤枠の部分の裏側が表紙になります。

博物館等で古文書を見るときには装丁にもぜひ注目してね！（CT）

参考文献：藤井隆『日本古典書誌学総説』（1991年、和泉書院）、山本信吉『古典籍が語る-書物の文化史』（2004年、八木書店）、東恩納寛惇「浦添家本伊勢物語について」（『東恩納寛惇全集』巻8、琉球新報社）

琉球大学附属図書館 沖縄資料担当 平成29年8月1日発行